

これからのネット社会

講師
中橋 雄

今回学ぶこと

この「高校講座・社会と情報」では、これまで、情報や情報技術に関する知識と技能について学ぶとともに、情報社会における課題をどのように解決していくことが望ましいのかを考えてきました。私たちが生きる情報社会は、これからも複雑に変化し続けていきます。便利な世の中になる一方で、さまざまな課題も生じています。一人一人が社会のあり方について考え、行動していくことが重要です。これからのネット社会について理解を深め、新しい時代を切りひらくための力を身につけましょう。

番組を見る前に知っておこう

フィルターバブル デジタルデバイド 人工知能 (AI)

情報化による社会の変化

私たちは、インターネットの普及によって便利な生活を送ることができるようになりました。一方、気づかぬうちに問題が起こる構造が生じることがあります。例えば、イーライ・パリサーは、「フィルターバブル」のもたらす危険性を指摘しています。フィルターバブルとは、ユーザが求める情報を予測して提供するアルゴリズムをもつ SNS や検索サイトによって、まるで「泡」の中に包まれたように特定の情報が遮断される現象のことです。このアルゴリズムは、個人の行動に関する情報（例えば、検索履歴、アクセス履歴、購買履歴、GPS 履歴、誰をフォローしているか、どのような投稿に「いいね」をしたかなど）に基づき個人の趣向を判断して情報を提供します。コンピュータがユーザの好みに応じて情報を提供してくれる仕組みは便利ですが、そのことによって見えなくなっている情報があると理解しておくことが重要です。自分の考え方が世の中の多数派だと思い込まずに、自分とは異なる考えをもつ人々の議論にも耳を傾けるようにしましょう。このような情報化による社会の変化には、他にどのようなものがあるか考えてみましょう。

デジタルデバインド

デジタル化されたサービスにアクセスできるかできないかという格差のことをデジタルデバインドといいます。現在のデジタルデバインドは、高齢者など、コンピュータなどの操作を覚えるのが困難な人や、障害によって情報機器を扱えない人、貧困のため情報機器の購入が困難な人、通信インフラが都心に比べて整っていない地方に住む人々などに起きています。情報技術を使いこなすことができる人が、そうでない人をサポートしていけるような環境を整えていくことが重要です。誰もが情報社会の恩恵を受けられるよう、デジタルデバインドの解消方法やユニバーサルデザインなどの社会的なデザインについて考えてみましょう。

誰もが参加できる情報社会へ

AI技術などさまざまな情報技術を活用して社会の課題を解決する取り組みが行われています。課題を解決するために、情報技術を生かすことができるようになります。また、情報技術や社会の変化を捉え、望ましい社会を目指して学び続けることが必要です。数年後の社会では、進化した人工知能（AI）が自ら知識を概念的に理解し、思考し始めているとも言われ、雇用の在り方や学校において獲得する知識の意味にも大きな変化をもたらすのではないかと予測されています。同時に、AIがどれだけ進化し思考できるようになったとしても、その思考の目的を与えたり、目的のよさ・正しさ・美しさを判断したりできるのは人間の最も大きな強みであるとも言われています。世の中の課題を解決するためにAIに何をさせるとよいか、それによって生じうる課題とその対処方法などについて考えてみましょう。

参考文献

パリサー, I. (2016) フィルターバブル. 早川書房 (井口耕二 訳)

このページ掲載の文章・画像の無断転載及び商用利用を固く禁じます。